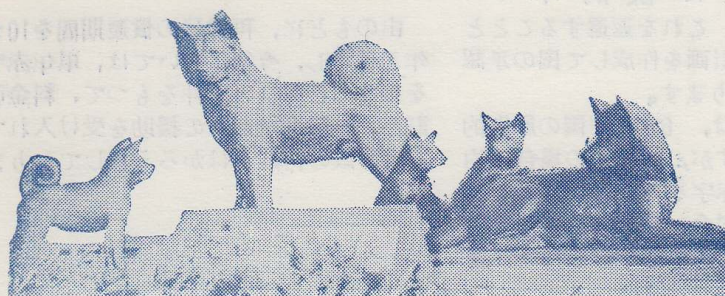


広報 おおだて

(3月号)

編集と発行 大館市役所



人口の都市集中化によつてどこでも、水道の需要が供給に追いつけなく、かつこれを是正するための設備投資にばく大な資金を費やした水道事業は、日ましに財政悪化のきざしがみえております。したがつて、全国の自治体で70団体もが水道料金値上げの動きをみせておることは皆さんもご承知のことと思います。元来水道企業は、公営企業であつて、あくまでも独立採算性をとり、企業として当然経済性は無視できなく、原価に見あう適正な料金をとることが原則とされています。しかし現在の水道料金は他の物価に比較して決して高いものではなく、東京都の場合、5割以上の引上げを予定しているが、現在、一般家庭では月17トン平均使用して280円程度しかとられなく、これを改正案で計算すると1月わずか14円の増にすぎないといわれています。

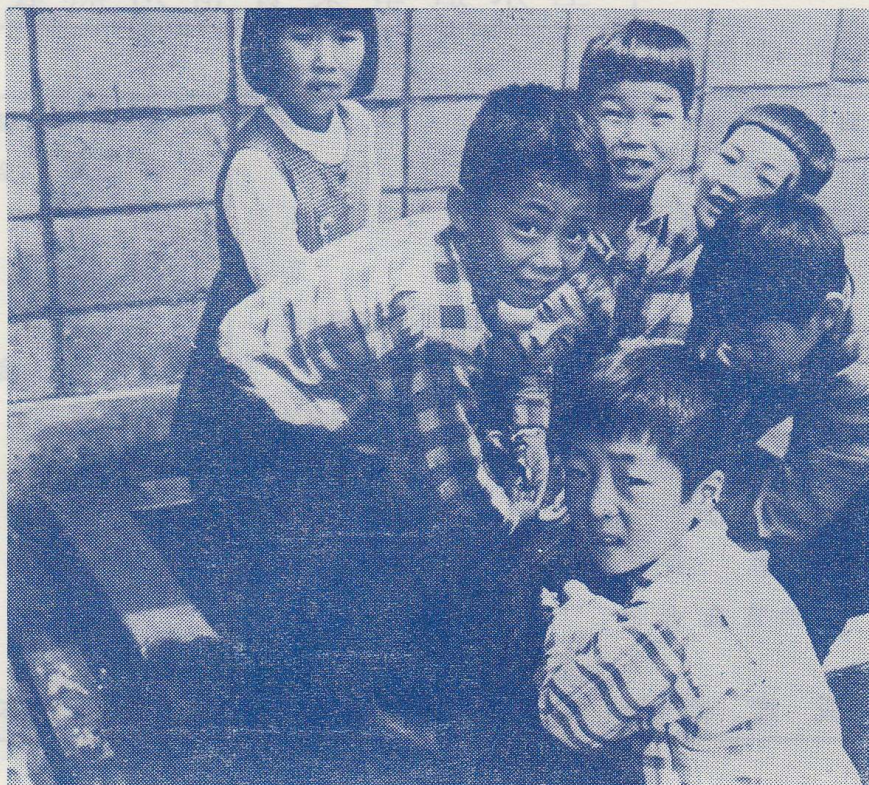
この号外は、大館市の水道事業の状況について、市民の皆さんのご理解をいただくために編集したものです。

水

水は私たちの生活のあらゆる面に密接なつながりがあることは申すまでもありません。水が多過ぎても生命、財産を一瞬に失なうような大きな災害を生ずることもあります。また反面、水がないときほど不自由なことはなく、水がなければ私たちの生命すら維持できないほど私たちの日常生活にかかせない重要さがあります。

その水を誰れでもが居ながらの場所で多過ぎないように、また、少な過ぎないように、必要に応じて求めるように考えられたのが水道であります。

ことに、健康で文化的な生活を保持するための水道の役割は大きいものがあります。なかでも衛生的な食生活によつて伝染病の発生が防止されていることや、火災による被害の減少などの役割をみても、水道は私たちの生活をささえる重要な役目をしていることがわかります。



水道財政の経緯

上水道の建設は、1億9千8百万円を投じて建設されたのですが、建設途中において、約4千万円の国庫補助金が法律改正によつて廃止され、そのため、この不足分をすべて起債(総額1億7千8百万円)によつてまかなわねばならなかつたわけです。このため、市の一般会計からの援助を願がったものの、31年の大火によつて市の財政事情が悪化したため、思うような繰入がなく今日に至つています。

一方、国の方針として、公共料金の値上げよく制が打ちだされており、本市としては苦しい財政事情にもかかわらず、今日まで料金改正を行なうことができなかったのであります。

以上のような経緯と現在までの営業費用の増加等により、昭和38年度において約7千2百万円の累積赤字(貸借対照表の示す剰余金において)をかかえざるを得なかつたのであります。

水道は社会的な役割が非常に大きいということから公営企業として経営することが最も望ましいこととされており、大館市でも、この水道事業を公営企業として昭和30年から始業しています。

水道の利用状況

水道の利用状況はことしの1月末で、戸数にして4,200戸、人口にして18,003人が利用しております。これは建設当初(昭和30度)の給水計画人口2,400人に対して、約75%の普及率となつております。

現在、水を送る配管は、旧市内全部を通つており、下川沿方面には片山をとおり越して根下戸と商業高校までのびており、釈迦内方面は板子石まで延長されております。

市全体の戸数からみて、水道の利用者は30%しかありませんが、今後、水道財政が好転してくるに従い、配管の延長も可能になるだろうし、これによつて給水人口も大市に増えるものと考えています。

公営企業